

◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

連載 ◆ 第20回 / これからの建物公開に向けて

Residence of Prince Asaka 1933—

旧朝香宮邸の建物は70年余の歳月を経て、宮家のお住まいから、賓客を迎える迎賓館、そして庭園美術館へとその役割を変えてきました。その間、貴重な建物の装飾や照明器具は、奇跡的に状態が損なわれることなく、現在、庭園美術館の様々な展示会の作品とともに見る人に感動を与え続けています。

しかし、70年もの間に使用が中断され荒れてしまった部屋、用途が変わり本来の姿と異なってしまった部屋があります。その中で、多くの皆様から公開の要望が高かった3階のウィンターガーデンは、美術館の開館20周年にあたる2003年に修復工事を終え、公開することができました(図1)。

修復にあたっては、竣工当時の資料が僅かしか残されておらず、しかも現存する写真もモノクロのため、サッシやドアノブの色が判明せず、腐食を丹念に落としていく過程でオリジナルの色が発見されるという、地道な作業を必要としました。汚れていた白漆喰の壁を元通りに塗り替え、天井の照明器具を精密に復元し、ウィンターガーデンに灯がともったときは、夢がひとつ叶ったような気持ちになりました。



図1

そして旧朝香宮邸には、まだまだ叶えるべき“いくつもの夢”が残されています。たとえば、現在修復中である正面玄関脇の小客室(図2)。ここはアンリ・ラパン設計による、彼自身の油彩画に四方を囲まれた優雅な小部屋です。この小客室の修復が完了し、皆様にお見せできるのも、もう間もなくのことでしょう*。またこのほかにも、1階の小食堂や2階の姫宮寝室・居間など、修復の手を入れるべき部屋の存在は、私たち美術館スタッフに新たな夢の続きを与えてくれています。

建物とともにお楽しみいただきたいのが当館の庭園です。庭園は70年の歴史の移り変わりのなかで、円形のプールが造られ、夏は水遊びに湧く賑やかな歓声が聞こえていた時代もありました。現在プールの跡地には安田侃氏による大理石の彫刻《風》(図3)が設置され、皆様の訪れを待っています。

当館の建物と展示会をお楽しみいただき、庭園ではゆったりとしたひとときをお過ごしください。(船越)

*2006年夏、小客室の公開を予定しています。



図3

図1. 修復に2年を要したウィンターガーデン。
赤い椅子と机は、竣工時に置かれていたものとほぼ同じモデルの現行品です(デザインはマルセル・ブロイヤーとマルト・スタム)。なおウィンターガーデンの公開は不定期のため、事前に当館へご確認のうえご来館ください。

図2. 現在修復中の小客室。壁にはラパンの油彩画がはめ込まれています。

図3. 安田侃《風》
イタリア産白大理石
2000年



図2